



2月の園だより

太碓の子保育園 2024年2月号

暦の上ではもうすぐ立春とはいえ、1年で一番寒い時期になりました。しかし、子どもたちにはそんなことは関係なく、毎日散歩にでかけるなど元気よく遊んでいます。寒さの中で、小さな春の訪れを見つけられるのも今月の楽しみです。

この冬、一部地域では大変な豪雪になっています。雪国での生活の経験がない人達にとっては、その大変さが今ひとつわからないですが、想像以上の苦勞があると思います。大雪や地震、インフルエンザなど、自然の力には逆らえないこともありますが、起きてしまったときにどう速やかに対処していくかが大切なことだと思います。

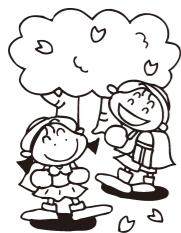
人と人のトラブルも同じで、最初の対処が大切な鍵になることが多いのではないのでしょうか。子どもたちも集団の中で色々な経験をしますが、小さいときから、困ったときや困った人を見かけたときに、しっかりと対処できる人になってもらいたいと思います。

節分

「ツノはどうしようかな!」「髪の毛はどうしようかな?」子どもたちのアイデアがたっぷり!ととてもすてきな鬼のお面ができあがりました。どことなく子どもたちに似たお面からは、一人ひとりの個性があふれだしています。節分の日会では「鬼は外!福は内!」と、元気なかけ声が響き渡っていました。豆まきで、自分の中のちょっと苦手な鬼を退治し、たくさんの福を呼びいれたことと思います。



保育所児童保育要録の送付を実施します



小学校などに就学する保育園児童に対する「保育所児童保育要録」の作成が義務付けられ、小学校などへ送付することになりました。これは、2009年4月から施行された「保育所保育指針」に基づき、子どもの育ちを支える資料として保育園が作成するものです。対象は、今年4月に小学校などへ就学する保育園児童全員で保育園から就学先の小学校などにお渡しする予定です。

バレンタインデーのお願い

保育園内でのお菓子の受け渡しはご遠慮ください。また、登園時にお子さんの通園カバンの中に入れておくことも、アレルギーや紛失の危険性がありますのでご遠慮いただきますようお願いいたします。ご理解・ご協力の程よろしく申し上げます。



2月の予定

- 2(金) 節分の日会
- 5~9 身体測定
- 8(木) 音楽指導(幼児)
- 9(金) 職員会議
- 9(金) お誕生日会
- 13(火) 年長児交流会(らいおん)
- 14(水) 調理保育(くま)
- 16(金) お別れ遠足(らいおん)
- 19(月) 体育指導(幼児)
- 19(月) 職員園内研修
- 20(火) 調理保育(らいおん)
- 21(水) 富士見小交流会(らいおん)
- 22(木) お別れ遠足(雨天)
- 24(土) 新入園児面談

※2月度避難訓練は実践訓練のため、抜き打ちでの実施となります。

3月の予定

- 2(土) 新入園児面談
- 4~8 身体測定
- 8(金) 職員会議
- 12(火) 体育指導(幼児)
- 14(木) 避難訓練
- 15(金) バイク給食(くま・らいおん)
- 23(土) 卒園式
- 25~ 新クラス体制

新クラス説明会

新クラスの担任紹介・クラス運営・行事・持ち物などについて説明させていただきます。

- 2/21(水) 新ひよこ組
- 2/26(月) 新ぺんぎん組
- 2/27(火) 新うさぎ組
- 2/28(水) 新ばんだ組
- 2/29(木) 新くま組
- 3/1(金) 新らいおん組

時間 ひよこ組は13:30~14:30
その他は17:00~18:00

会場はホールです

人としての基礎を作る今だからこそ、気になる、知りたい

わが子の子育ての気がかりなのはどんなこと?

わが子の幸せを願うからこそ、いろいろ気になるのが親心というもの。子どもの育ちをあたかく見守り、必要に応じて上手に導ける親になるためのヒントをまとめました。



人の気持ちがわかる子に育てたい

いくら優秀でも、「自分さえよければいい」という人間ではさみしい。人の気持ちや痛みがわかる人に育てるには、どんなことを心がけたらよいのでしょうか?

むしろ「他人の気持ちは簡単にはわからない」という経験が大切

他人の気持ちというのは見えるわけではないので、理解するのはなかなかむずかしい。本当の意味で他人の気持ちがわかるようになるには、私はむしろ「わからない」という経験が大切ではないかと思っています。自分とは異なる他人にたくさん出会って、「人の気持ちは、わかりにくい」「自分とは違うんだな」ということに気づく。そして、自分にとっては「なんだか変だな」と思うことでも、ある人にとってはふつうのことなのかもしれないと考えるくせをつけたほうがよいように思います。

今は家庭環境が似ている同士のつきあいが多かったり、人づきあいが単調になっていますが、親としては子どもの交友関係に口を出すなど、子どもの経験をせはめる方向の働きかけはしないほうがいいですね。世の中に出れば、いろいろな人に出会わなければならないのですから。

思いやりの心、どう育てる?

電車の中で、目の前にお年寄りが立っていても知らん顔。そんな子どもにはなってほしくない。思いやりのある子どもに育てるには?

思いやりを示す行為は小さいときから大人がお手本を見せて習慣づけを

たとえばお年寄りに席を譲るというような行為は、半分はくせとか習慣のようなもの。そういう状況に遭遇したら自動的に体が動くということが必要で、頭であれこれ考えてするものではないんですね。思いやりの気持ちはあっても、はずかしかったり、タイミングがつかめなかったりで席を立てないという人もいますでしょう。

こういう行為がさっとできるようになるためには、「おはよう」「ありがとう」などのあいさつと同じで、小さいころからの習慣づけが大事です。それには、ことばで教えるよりも、親など周囲の大人がお手本を見せることがいちばん。お母さんやお父さんはしないけれど、子どもには「やりなさい」というのはむずかしいでしょう。

がまん強さ、どう育てる?

いまだきの子どもは「がまんができない」といわれます。でも、がまんばかり強いるのも、子どもがのびのび育たなくなりそうで心配です。

なんのためにがまんするかを、子どもがわかるように示してあげたい

一方的に大人が押さえつけるかたちで子どもにがまんとさせていくと、その子はとても消極的になってしまうおそれがあります。子どもの意欲や好奇心をつぶさずに、がまんする力を育てるには、「こうすると、こんないいことがあるよ」というポジティブ要因を示しながら、「だから、がまんする」という気持ちを子どもの中に育てていくことが大切です。

たとえば、デパートに買い物に行くときに、「今日はおもちゃ買わないよ」と約束をしたけれど、やっぱり見ればほしくなってしまう。そんなときは、ただ「約束したからダメ」と言うより、「今日はダメだけど、今度クリスマスにサンタさんに頼めばきっともらえるよ」などと先の見通しを示してあげること。予防接種の痛みをがまんするような場合は、「すごいね、お兄さんだね」と成長の欲求に訴えたり、「これで病気になるまいよ」と注射のメリットを教えるはげますのもいいでしょう。



おけいごと、早期教育

スポーツ、勉強、芸事など、さまざまな分野で若き天才たちが才能を開花させています。わが子の才能を見出し育てるには、早くからの取り組みが有効?

幼児期は、遊びの中で何かを学べるような配慮を

人間の才能というのは5歳くらいからはっきりしてくるものなので、正直なところ0才からおけいごとをしたからといって、その子の才能がそこで開花するというようなことは、まずありません。もし本当に才能があれば、5才から始めたとしても、すぐにおいつくことができるものですから。

幼児期のうちはどこに才能があるかなどはまだわかりませんから、何か一つに賭けるのは賢明ではありません。スポーツなら、特定のスポーツを本格的に始めるというより、全身をまんべんなく使う運動の方がおすすめです。遊びと学びをあまり分けずに、遊びの中で何かを学べるような機会があるといいでしょう。楽しく夢中になってこそ、脳が活性化してよく働くので、無理強い禁物です。

「シンプル育児の正解(主婦の友社)」より抜粋